

まちづくりイノベーションHUB 「まちばた.net」

MACHIBATA.net—Innovation Hub for Community Development

● 原田博一 ● 八木龍平 ● 指田直毅

あらまし

まちづくりに取り組む個人や組織、団体をつないで社会に新しい価値を生み出すために、富士通研究所はまちづくり活動の広報や連携を支援するWebサイト「まちばた.net(まちばたドットネット)」を2011年11月に公開した。「まちばた」とは、まちづくりの活動そのものを知らせるために掲げる旗を意味する。まちばた.netでは、まちづくり活動の想いや内容を表現し団体間や団体と個人で共有できるほか、共通の関心を持つ人達の発見や、セミナーのイベント告知ができる。また、地域の魅力や重要な人・施設を取材して発信するスキルを身につける研修を実施している。まちばた.netは、リアルとネットの両面から、地域間交流や地域で活躍する人材の育成を支援している。

本稿では、まちばた.net公開の背景や目的、サービス内容、実績と今後の展開について述べる。

Abstract

Fujitsu Laboratories launched the Website Machibata.net in November 2011. It is a Website to link the individuals, organizations, and groups that are working to develop communities and help them create new value in society. The name “Machibata” is a combination of the Japanese words for town (“machi”) and flag (“hata”), and the Website is intended to act as a “flag” that is flown to inform people that the activity of community development is being carried out. With Machibata.net, users can share the content of community development, look for companions who have an across-the-board concern, and be notified of events. Moreover, Machibata.net offers training for people to acquire skills in covering (for the media) the attractions of a region and its important people and facilities, and conveying that information. Machibata.net helps nurture human resources that are active in the community and in interregional exchange from both aspects of the real world and the Internet. In this paper, we describe the background to the launch of Machibata.net, its purpose, the content of its services, its results, and its future development.

まえがき

著者らはこれまで、質的デザイン方法論の研究開発と実践をしてきた。この質的デザイン方法論は、人の深層的なニーズの把握と中長期的な方向付けを行う特長があり、対人コミュニケーション全般において有効である。しかし本方法論はこれまで、ビジネス現場での実践が大半であり、そのほかの場面への適用と実践、利活用が十分に行われてこなかった。2011年11月に富士通研究所が公開した「まちばた.net(まちばたドットネット)」は、特定地域に依らないまちづくり活動の情報流通と協働を支援するもので、まちづくり活動の広報や課題解決、新規事業の創出を望むまちづくり団体やそれに関わる人々にとって役立つ、簡便な方法を提供する。

背景には、国民の社会的サービスへの期待の高まりがある。社会的サービスとは、ボランティア、NPO、市民活動などによって提供される、子育て、スポーツ、介護、防犯・防災などに関わる生活支援などを行う非営利事業である。社会的サービスと国民の関係には活動参加、寄付、サービス利用の三つがあるが、近年、全てに対する意向が増加している⁽¹⁾。社会的サービスの社会における存在意義・価値が高まるにつれ想定されるのは、「どこで、どのような活動をしている団体か」「どのような想いや将来ビジョンを持っている団体か」「いつ、どこで、どのような形でサービスを提供しているか」といった、サービス提供者に関する情報収集ニーズの高まりである。このニーズを満たすためには、提供するサービス内容に閉じない、活動全体の情報を流通させることが望ましい。すなわち、団体名称、活動規模・場所、提供するサービス内容などの量的な情報だけでなく、サービス提供者の活動への想い、活動における価値観、活動のありたい姿などの質的な情報まで含めて流通させることが必要である。

本稿では、日本全国のまちづくりとまちづくりをつなぐ活動「まちばた.net」を紹介する。

まちづくりへのアプローチ

「まちづくり」という言葉は、都市整備計画や地域活性化など、言葉が使用される文脈によって様々

に意味付けられる。まちばた.netでは、まちづくりとは、自らに関わる地域と、そこでの暮らしをより良いものとするための非営利活動全般と意味付ける。よって、まちばた.netが対象とするまちづくりの活動主体は、特定地域や、地域住民や一般市民に限定しない。例えば、地域に事業所を構え、地域に貢献したいと考える民間企業などもまちづくり活動の主体と捉える。

現在、まちばた.netが対象とするまちづくり活動に対する支援は、主に自治体や地域NPOが運営する中間支援組織によって行われている。この場合、おのずと支援の提供範囲は行政管轄区域などの特定地域内に限定される。

また、内閣府「NPOホームページ」⁽²⁾や、経済産業省「街元気～まちづくり情報サイト」⁽³⁾などのWebサイトは、特定地域に依らない、全国各地のまちづくり活動に関する情報を発信している。しかし、対象団体が法人格を有する非営利団体に限定され、更に中心市街地活性化という特定のテーマに関わる活動を主な対象とするなど、発信情報の内容はWebサイト運営元の管轄事業内容に規定される。

これらのことから、著者らは、地域や属性を越えたまちづくり活動の共有や活用は十分に行われていないと考える。そしてこの状況は、「行う必要性や需要がない」ためではなく、「行うことが難しい」ために生じており、この状況を変えることが必要であると考えられる。

まちばた.netの目的と概要

地域を越えてまちづくりをつなぐ支援をするためには、物理的制約に依らず、まちづくりに関する情報を共有し、かつ、その情報を基にした相互連携を起こしやすくする仕組みを提供することが必要である。

そのために著者らは、Webサイト「まちばた.net」を開発した。

まちばた.netの目的は、地域を越えてまちづくりとまちづくりをつなぎ、社会に新しい価値を創造するHUB(中継役)になることである。まちばた.netは、まちづくり活動に参加したいと考える個人や、まちづくり活動の仲間を探す団体、地域に貢献したいと考える組織や企業、自らの専門性を生かし

たいと考える研究者や専門家など、まちづくり活動の主催者と参加者が活動の情報を収集・共有したり、互いに関わるきっかけを提供したりする。まちばた.netのコンセプトを図-1に示す。

まちばた.netの一番の特色は、まちづくり活動を行う個人や組織・団体が、「まちばた」を作成することにある。「まちばた」とは、まちづくりの活動そのものを知らせるために掲げる旗(まちのはた)を意味する。まちばたは、団体が行うプロジェクト単位で(複数)掲げることができる。まちばたは、活動における価値観や将来ビジョンなど中長期的に変わりにくい情報と、イベント告知など短期的に変わる情報で構成される。まちばたの特長は、前者を「ソーシャルカード」として記述する点にある。ソーシャルカードは、活動への「想い」を含む、まちづくり活動の概要を表現するコミュニ

ケーションフレームワークである。ソーシャルカードの構造は、著者らが開発した図-2に示す「エイム(AIm: Appreciative & Imaginative)」インタビューモデルに基づいている。エイムインタビューは、製品・サービスユーザの変わりにくい本質的なニーズを把握し、中長期的な視野に立ったコンセプトをデザインするために開発した、質的調査・分析の方法論である。エイムインタビューの特長は、「想い」を捉えて表現し伝えることにある⁽⁴⁾

まちづくり活動では、今あるまちの課題を解決したい、将来のまちの姿はこうありたいといった、まちに対する個々の考えやイメージ、すなわち、活動の根本にある「想い」を表現し伝えることが重要である。まちばた.netでは、エイムインタビューモデルを適用することにより、これを可能にしている。



図-1 まちばた.netコンセプト

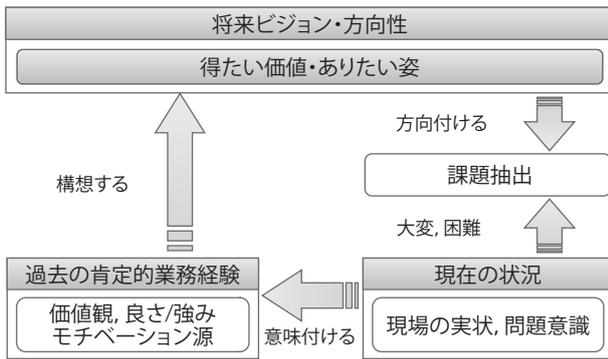


図-2 エイムインタビューモデル

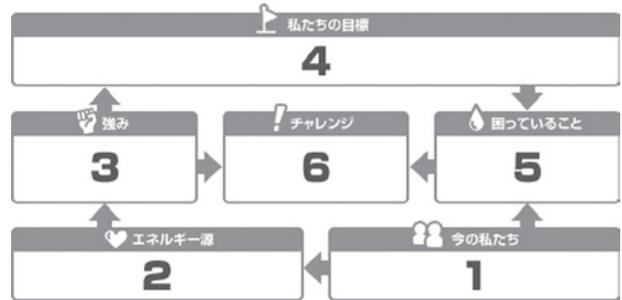


図-3 ソーシャルカードの構造

まちばた.netのサービス体系

まちばた.netが提供するサービスは大別して二つある。全国各地のまちづくり活動について知り合い・応援し合い・つながり合うための「まちばた」サービスと、まちで活躍している人や団体の活動への想いやノウハウを取材記事として掲載する「まちばたレポート」サービスである。まちばた.netの全てのサービスは無料で利用できるが、一部のサービスを利用するためにはユーザ登録が必要である。ユーザ登録にはFacebook, Twitter, mixi, Google, Yahoo!のうちいずれかのユーザアカウントが必要となる。

まちづくり団体にとってまちばた.netは、自身の活動内容を広報する、活動の参加者や支援者を探す・募る、取材を受け活動詳細を発信できるWebサイトとして位置付けることができる。市民にとってまちばた.netは、自身の暮らす地域を含む全国各地のまちづくり活動を知る、活動への参加・支援意思を表明する、様々なまちづくり団体の詳細の記事として読むことができるWebサイトとして位置付けることができる。

まちばたサービス

本章では、まちばたサービスが提供する五つの機能を紹介する。

(1)「まちばた作成」機能

まちづくり活動を紹介・共有するための、いわばポータル（入口）ページが作成できる。まちばた作成に当たっては、名称、活動地域、活動概要といった基本情報に加え、ソーシャルカードを作

成するところに特徴がある。ソーシャルカードは図-3に示すように、活動の現況を表現する「今の私たち」、活動の原動力を表現する「エネルギー源」、活動の特長を表現する「強み」、活動の目的や目標、目指す姿を表現する「私たちの目標」、活動の課題や理想と現実のギャップを表現する「困っていること」、今後の活動を表現する「チャレンジ」の全6項目で構成され、いずれの項目も30～40文字以内で端的に表現する。これら6項目が現在－過去－未来の関係性を持って構成されていることにより、活動への想いを含む、まちづくり活動の概要を簡潔に表現できるようになっている。

(2)「まちばた応援」機能

自分が興味・共感を持ったほかのまちづくり活動を「応援」という形で意思表示できる。具体的には、各まちばたに設置されている「このまちばたを応援する」というボタンを押すことで実現する。このまちばた応援機能は、ユーザとまちばた、ユーザとユーザ、まちばたとまちばたといった、両者相互のつながりを促す価値を提供する。具体的には、まちばたには、まちばたを応援しているユーザを表示するエリアが設置されており、そのまちばたを応援するほかのユーザを知ることができる。これにより、自分と似た興味・関心を持つユーザの存在を知ることができる。加えてまちばたには、まちばたを応援するユーザが、ほかにも応援しているまちばたがある場合、それらを表示するエリアが設置されている。これにより、ある一つのまちばたの閲覧や応援をきっかけに、自分が興味・共感を持ちそうなほかのまちばたの存在を知ることができる。

(3)「イベント作成・管理」機能

まちづくり活動で実施されるイベントやセミナー、勉強会などの広報・申し込み管理ができる。イベントには2種類がある。新聞や雑誌への掲載、Webやテレビでの紹介などが該当する周知型イベントの「見て」と、セミナーやワークショップ、座談会などが該当する集合型イベントの「来て」である。イベントは、まちばた作成済みのユーザであれば、誰でも作成することができる。また、まちばた.netのユーザであれば、誰でもイベントに申し込むことができる。

(4)「まちばたサポーターズ」機能

まちばたごとに、サポートできること、サポートして欲しいことを登録できる、いわゆるニーズマッチング機能を提供する。登録はそれぞれ複数個可能である。例えば、まちばたの「強み」、つまり、活動内容そのものをサポートできることとして登録したり、あるいは、まちばたの「困っていること」をサポートして欲しいこととして登録したりするといった中長期的な情報を登録する。また、イベント開催に伴うスタッフ募集をサポートして欲しいこととして登録するといった、短期的な情報を登録する使い方ができる。

(5)「ソーシャルメディア連携」機能

まちばたやまちばたレポートなど、まちばた.net上で生成されるコンテンツを、Facebookなど各種ソーシャルネットワークサービス(SNS)や、ほかの既存Webコンテンツと接続できる。連携方法には二つある。コンテンツ作成時に、まちばた.netが自動で各コンテンツにソーシャルプラグインを設置し接続する方法と、まちばた作成時に、ユーザ自ら既存のWebサイトやブログのURLを指定し接続する方法である。なお、ソーシャルプラグインとは、FacebookなどSNSが提供する機能で、WebサイトのコンテンツをSNSに接続するものである。前者では、Google+, Tumblr, Delicious, mixiチェック、はてなブックマーク、Facebookのソーシャルプラグインが自動で設置される。後者では、Webサイト、ブログ、Twitter、FacebookページのURLを任意指定できる。まちばたには、各種メディア上の最新情報を自動収集・集約し、時系列で表示する「活動ログ」エリアが設置されている。この「活動ログ」エリアに表示される情報は、ユー

ザが任意指定したメディアから取得する。

まちばたレポートサービス

まちばたレポートでは、地域で活躍している魅力のある人や団体について、活動への想いやノウハウを取材記事として掲載する。まちばたレポートの執筆には二つのパターンがある。まちばた.net事務局の担当者が取材・記事作成・掲載まで一貫して行うパターンと、まち記者養成講座の修了生が取材・記事作成を行い、まちばた.net事務局の担当者が掲載を行うパターンである。特に後者のパターンについては、まちばた.netの今後にとって重要である。まち記者養成講座、および今後の展開については後述する。

まち記者養成講座

まちばた.netでは、地域の魅力を自ら取材して発信するために必要なスキル習得の機会と場の提供を目的として、集合教育と現場教育を組み合わせた「まち記者養成講座」を開発・実施している。講座内容は主に「プロ記者の講演」「インタビュー」「写真や動画の撮影」「取材記事の作成」「ソーシャルメディアの活用」「取材実習」のテーマで構成される(表-1)。

本講座の特色は二つある。地域の公共団体や地域メディアと連携して企画・開催することと、講座修了生にまちばた.netを取材記事発信メディアとして活用してもらうことである。例えば、「プロから学ぶ取材の心得」の講義では、実際に地域メディアに携わる方を講師に招き、地域メディアの位置付けや価値、これまでの取材エピソードなどを受講生に伝える。また、「実習」の講義では、受講生

表-1 まち記者養成講座のカリキュラム例

| 回 | テーマ | 講師 |
|---|----------------------|--------------|
| 1 | プロから学ぶ取材の心得 | 地域メディア編集長&記者 |
| 2 | 効果的なインタビュー術 | 富士通研究所 |
| 3 | デジタルカメラを用いた写真の撮影と加工術 | 開催地域在住の映像制作者 |
| 4 | 印象に残る記事の執筆方法 | 富士通研究所 |
| 5 | ソーシャルメディアからの情報発信 | 富士通研究所 |
| 6 | 実習(取材実施と記事作成) | 富士通研究所 |
| 7 | 全体振り返り | 富士通研究所 |

が興味・関心のある施設や人・団体について自ら取材・作成した記事を、まちばた.netの「まちばたレポート」に掲載する。

本講座では、講座修了証に相当するものとして、受講生の希望に応じて「記者（市民記者）」に相当する肩書きを付与した名刺を配布している。名刺配布の狙いは二つある。記者という肩書きを持つことで以降の取材活動を行いやすくすることと、地域住民やまちづくり活動との交流接点を作りやすくすることである。そのために名刺のおもて面には、記者の肩書きとともに氏名、連絡先、取材記事掲載先であるまちばた.netのURLを記載し、うら面には記者自身のソーシャルカードを記載する。名刺にソーシャルカードを記載することで、取材相手に対して自分自身の興味・関心や記者活動への想いを端的に伝えることができる(図-4,5)。名刺は講座の終盤、取材実習前に配布する。これは実習中も名刺を利用することで取材活動をスムーズに進めるためである。

まち記者養成講座がもたらす効果は二つある。講座受講生が取材スキルを身につけることに閉じず、記者として取材活動を実際に行うことで地域の交流を生み出すきっかけとなることと、主婦や

定年退職された方など、職業としての肩書きを持っていない人達に、記者という「居場所」と「出番」が生まれることである。

実績と今後の展開

まちばた.netは2011年11月に運用を開始し、イベント作成・管理など、順次機能を追加しつつ現在に至る。まち記者養成講座は2012年5月に神奈川県での開催を皮切りに、東京都中野区、愛知県名古屋市、福岡県と全国各地で開催している(表-2)。

まちばた.netに対しては、「地域性を持たない市民交流メディアを一自治体で作るのは困難。民間が作ることに意味がある」「ほかの地域で行われているまちづくり活動の様子を情報収集するためのサービスとして利用したい」「自治体職員が地域NPOなどとの連携事業を検討する際の情報源として活用できるのではないか」といったコメントがあり、まちばた.netのコンセプトがおおむねユーザーに受け入れられ、評価されている。

まち記者養成講座受講生に対して実施したアンケートでは、講座に期待すること・魅力に感じたことについて、「自ら情報発信する舞台やノウハウ



図-4 まち記者名刺(おもて面)

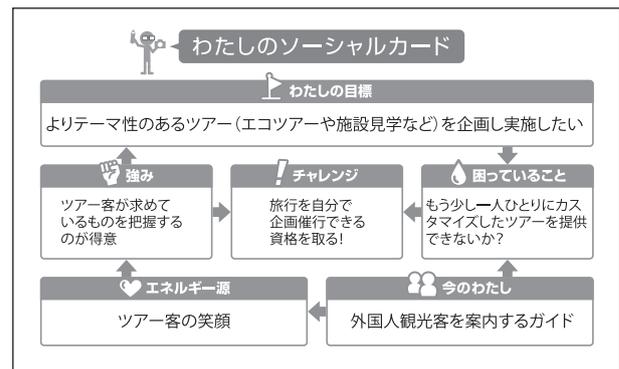


図-5 まち記者名刺(うら面)

表-2 まち記者養成講座の開催実績

| 名称 | 地域 | 時期 | 連携 |
|----------------------|---------|--------------|------------------------------------|
| 平成24年度県民記者ボランティア養成講座 | 神奈川県 | 2012年5月～7月 | かながわコミュニティカレッジ(神奈川県) |
| 中野区民ボランティア記者養成講座 | 東京都中野区 | 2012年10月～12月 | 特定非営利活動法人ストリートデザイン研究機構, 中野区社会福祉協議会 |
| プロから学ぶ記者の取材術 | 愛知県名古屋市 | 2012年11月～12月 | 名古屋市, 富士通東海支社 |
| ハーベスト・まち記者養成講座 | 福岡県 | 2012年11月～12月 | ハーベスト(株式会社NOTCH) |

が欲しい」「自身のNPO活動で情報誌を作成する参考にしたい」「行政系中間支援組織の人材育成に使いたい」「聞く、伝える、興味のあることを伝える技術を学べる」「講義だけではなく実習があること」といった回答があり、地域住民による潜在的な情報発信ニーズの存在がうかがえる。また、記者名刺を作成・配布することについて、「3年ぶりに自分の名刺を持ってうれしくなりました」「以前、自分が興味を持った施設にひとり手ぶらで行って話が聞きたいと訪問したことがある。そのときは不審者のように思われたので名刺をもらえて良かった」「ソーシャルカード、素直に書きすぎて、後で内容を変えたいと思ったんですけど、これも話のきっかけになるからこのままでいいです」といった回答があり、記者名刺を持つことにより、地域との新たな関係性が生まれる効果がうかがえる。

これらの実績を踏まえ、まちばた.netは今後も地域を越えたまちづくりのHUBとしての社会価値を高めるべくリアル・ネットの両面からサービスの充実を図る活動を行っていく予定である。

む す び

本稿では、まちばた.netを紹介した。まちばた.netの目的は、地域を越えてまちづくりとまちづくりがつながり、社会に新しい価値を創造することで

ある。そのために、「想い」を含む、まちづくり活動の概要を表現するソーシャルカードや、活動への想いやノウハウを取材記事として掲載するまちばたレポートなど、質的な情報を含めて流通しやすいサービスを提供している。また、地域の魅力を自ら取材して発信するために必要なスキル習得の機会と場をまち記者養成講座として提供し、あわせて地域活性化のきっかけとなる記者名刺の発行を行っている。まちばた.netがまちづくりのHUBとなり、地域や社会に新しい価値をもたらす社会インフラとなるよう、今後も改良と利用促進に取り組んでいく。

参考文献

- (1) 内閣府：平成23年度国民生活選好度調査. 平成24年6月22日.
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>
- (2) 内閣府：NPOデータベース.
<https://www.npo-homepage.go.jp/>
- (3) 経済産業省：街元気～まちづくり情報サイト.
<https://www.machigenki.jp/>
- (4) 八木龍平ほか：お客様視点の質的デザイン. *FUJITSU*, Vol.59, No.6, p.641-646 (2008).

著者紹介



原田博一 (はらだ ひろかず)

ソフトウェアシステム研究所インテリジェントテクノロジー研究部 所属
現在、地域メディアとデザインコンセプト構築の研究開発と教育、ビジネス領域におけるデザイン思考プロセスの実践に従事。



指田直毅 (さしだ なおき)

ソフトウェアシステム研究所インテリジェントテクノロジー研究部 所属
現在、人間中心設計、社会サービスデザインなどの研究開発に従事。



八木龍平 (やぎ りゅうへい)

ソフトウェアシステム研究所インテリジェントテクノロジー研究部 所属
現在、地域メディアとデザインコンセプト構築の研究開発と教育に従事。